

市町村名	座間味村						
平成29年度沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート							
事業名	DMO形成及び法人誘客事業	事業類型	<input checked="" type="checkbox"/> 産業振興 <input type="checkbox"/> 定住促進 <input type="checkbox"/> その他				
担当部課名	総務・福祉課	事業実施(予定)年度	平成29～30年度				
事業内容	観光業の振興を図るため、DMO協議会を立ち上げる。さらに、ダイビングを活用した企業研修に関するプログラムを開発し、受入れ人材の育成やマーケティング・販売促進などを行う。 ※DMO…観光地域づくりの舵取り役を担う法人。観光庁の登録制度により、日本版DMO法人に選定される。						
先導性に係る取組	<input checked="" type="checkbox"/> 自立性 <input checked="" type="checkbox"/> 官民協働	<input type="checkbox"/> 政策間連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業推進主体の形成	<input checked="" type="checkbox"/> 離島活性化を担う人材の確保・育成 <input type="checkbox"/> その他				
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(32年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「補助金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		19,980				
			19,980				
			0				
			0				
			19,980				
		B. 執行済額	19,980				
		うち補助金充当額	15,984				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	100.0%				
	予算の状況の説明	当初の計画通り、適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	日本版DMO形成・確立計画の策定	目標	1件				
	実績	1件					
達成状況説明	平成30年3月「日本版DMO形成・確立計画」を策定した。 平成30年7月、観光庁の日本版DMO候補法人登録制度により、日本版DMO候補法人に登録された。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(28年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(33年度)
	入域観光客数(人)	目標	103,505	—			120,000
		実績		108,467			
	成果目標(指標)		基準値(28年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(32年度)
	法人誘客プログラムによる誘致企業数(年間)	目標	0社	—			30社
		実績		—			
進捗状況説明	入域観光客数: 平成29年度の入域観光客数は108,467人となった。平成32年度には村観光協会がDMO法人として登録される予定であり、当該法人が戦略的に観光施策を展開することで、平成33年度の入域観光客数120,000人を見込んでいる。 法人誘客: 村内の人材育成や村観光協会の受け入れ態勢整備を行い、プログラムを軌道に乗せるまで一定の期間を要するため、目標達成年度を32年度と見込んでいる。 29年度は実証事業として4社をモニター誘致し、一定の評価を得ることができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>入域観光客数： DMO法人登録について、村内事業所の理解は未だ一部にとどまっている。</p> <p>法人誘客： ダイビングを活用した企業研修について、海洋での実地研修は質の高い内容を提供できた一方、座学研修は、外部講師に頼っているのが現状である。</p>	<p>入域観光客数： 村内観光事業所の理解を得るため、共有できる上位計画が必要である。</p> <p>法人誘客： 今後の円滑なプログラム実施のため、実地・座学研修を行えるインストラクターを確保する必要がある。また、旅行者や村内観光事業所との連携強化を図るため、観光協会の役割が重要である。</p>

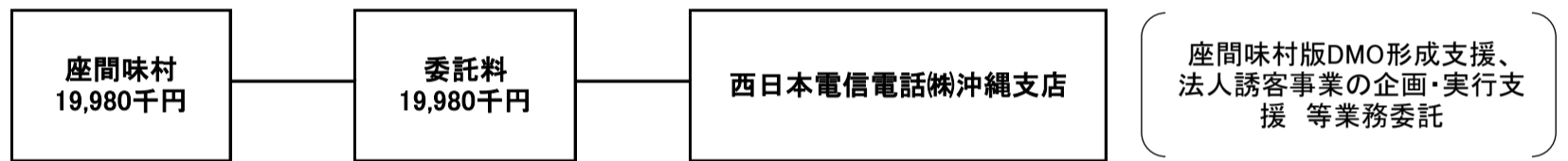
今後の取り組み方針

入域観光客数：
村内観光事業所の情報交換・合意形成を図ることを目的に、観光協会が中心となり、ワーキングメンバーとともに観光振興計画を策定する。

法人誘客：
ダイビングインストラクター、観光協会職員の中から座学も行える講師を養成する。また、観光協会が受入れ業務を担い円滑な現地コーディネートを行えるよう、旅行者や村内観光事業所との連携強化を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	市町村負担金	補助対象外経費
19,980	19,980	15,984	3,996	0



資金の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	座間味村プロポーザル方式業者選定実施要綱により選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模及び事業内容については、業者選定時に村プロポーザル委員会(幹部職員で組織)で精査している。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	—
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・用途に関しては、予算要求時に財政担当の査定を受けており、かつ、事業検収時に確認されている。